



▲募金協力を呼び掛ける留萌市老人クラブ連合会会員

## 「支え合う」「地域とのつながり」 できることの継続が大切

留萌市老人クラブ連合会

留萌市老人クラブ連合会は、昭和38年に老人福祉法が制定されたことを受け、高齢者福祉の向上などを目的に同年11月に発足し、一昨年の平成25年に創立50周年を迎えました。

スポーツ大会や道内旅行などで会員同士の親睦を図っているほか、高齢者福祉施設や児童施設にタオルを寄贈する「タオル1本運動」をはじめ、「赤い羽根」街頭募金活動や高齢者福祉施設への慰問などの奉仕活動に取り組んでいます。

会長の松下功さんは「私たちは、時代に合った明るく豊かな高齢社会の構築を目指し、生きがいづくりを

基盤に『健康』『友愛』『奉仕』の三大運動に取り組んでいます。いずれの活動でも会員同士が互いに支え合い、楽しみながら活動しています」と語っています。

具体的には、「赤い羽根」街頭募金活動として市内の食料品店や大型量販店などの店先で募金協力を呼び掛けている。また、高齢者福祉施設への慰問として会員が施設を訪れ、舞踊やダンス、歌などを披露して施設利用者を楽ませています。

このほか、単位クラブの奉仕活動として「在宅福祉を支える友愛活動」に取り組んでいます。「友愛活動



留萌市老人クラブ連合会

まつした いさお  
松下 功 さん

では、地域の実態に応じ、独り暮らしの方などへの見守りや声掛け、除雪の手助けなどを行っています」と話しています。

「奉仕活動は継続が一番難しいので、自分たちができることをできる範囲で続けていくことが何よりも大切です」と強調し、「支え合う気持ちを持って、地域とのつながりを大事にすることが『おもいやり』だと思います」と話してくれました。

◇  
留萌市老人クラブ連合会の活動については、下記までお問い合わせください。